

2021年度

地球環境『自然学』講座

第16回

テーマ

海洋ゴミ問題と私達の未来

講師

大阪府立大学准教授

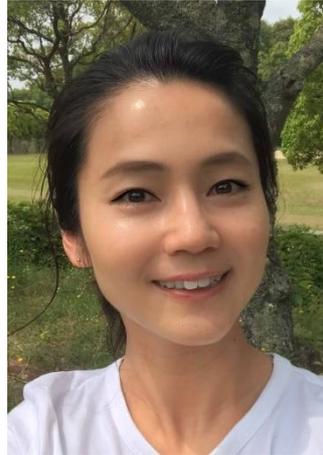
千葉 知世 先生

2021年12月11日

認定NPO法人・シニア自然大学校

講師プロフィール

千葉 知世 (ちば ともよ)



1. 経歴

2009年京都大学総合人間学部卒業、2011年京都大学大学院地球環境学舎地球環境政策論分野修士課程修了、2016年京都大学大学院地球環境学舎地球環境政策論分野博士課程修了、京都大学博士（地球環境学）。学生時代は国内外のNGO、コンサルティングファーム等でインターンとして勤務。日本学術振興会特別研究員（DC2）、兵庫県立大学淡路緑景観キャンパス客員教員（非常勤）、阪南大学経済学部専任講師、同准教授を経て、2020年より現職。東京都地下水対策検討委員会委員、京都市環境審議会委員、宝塚市廃棄物減量等推進審議会委員等。

専門は環境政策・環境ガバナンス。近年は海洋ごみ問題と地下水保全管理を主な研究対象とする。2020年に（一社）加太・友ヶ島環境戦略研究会を設立、代表理事に就任。NPO法人環境市民理事、News Picks プロピッカー。プライベートでは0歳と4歳の男児の母。

2. 現職

大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 准教授

3. 著書

単著『日本の地下水政策：地下水ガバナンスの実現に向けて』（京都大学学術出版会、2019年）で令和3年度日本水文・水資源学会学術出版賞受賞。共著として『地下水・湧水の疑問50』（公益社団法人日本地下水学会編、2020年、成山堂）、『森林環境2010』（森林環境研究会編、2009年、（財）森林文化協会）など。単著論文として「海洋ごみガバナンスへの挑戦：ポスト・プラスチック社会を求めて」『ACADEMIA』（183巻、2021年）、「地下水行政の歴史的展開」『地下水学会誌』（60巻4号、2018年）、「地下水保全に関する法制度的対応の現状：地下水条例の分析から」『水利科学』（58巻2号、2014年）など。

海洋ごみ問題と私たちの未来 大阪府立大学 千葉知世

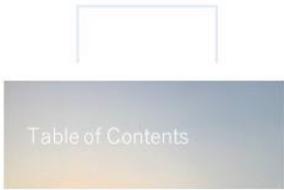


Table of Contents

- 1 広がる、「プラスチック汚染」
- 2 大阪湾の海洋ごみ問題と友ヶ島での取組
- 3 現場で感じるむずかしさ
- 4 蛇口を閉めよう
- 5 暮らしを変えよう
- 6 おわりに

© 2020 Kada Tomogashima Institute for Environmental Strategies (KATIES)

本日の講義の内容です。近年、国内外で高い関心を集めている「プラスチック汚染」とはどういう問題なのか。それを改善していくために、私たちは何をしていけばいいのか。そのあたりを皆様と一緒に考えたいと思います。

- 「プラスチックの見つからない海はない」ほど、プラスチックによる環境汚染が広がっている
- それにより、海の生きものたちをはじめとする生態系への影響が出ている
- 人体への影響は未解明な部分が多い
- どうなるかわからないリスク→考え、判断し、行動していくべきは私たち自身。今のために、未来の子どものために。

© 2020 Kada Tomogashima Institute for Environmental Strategies (KATIES)

太平洋のど真ん中でも、最深の海でも。プラスチックが見つからない海はもはやないとさえ言われています。これによって海の生物たちに様々な影響が出ており、人体への影響も懸念されるようになってきました。

未解明なこと、不確実なことも多く、何をどうすべきかについて、はっきりした答えはありません。私たち自身が考え、判断し、行動していかねばなりません。

プラスチックの排出国について、最もよく引用されている研究結果(Jambeck et al. 2015)によると…

1位	
2位	
3位	
4位	
5位	
6位	
20位	
位	日本 (6万トン)

2010年における推定。()は推定最大値を記載。

Source: [Jambeck et al. 2015](#).

JENNA R. JAMBECK, ROLAND GEYER, CHRIS WILCOX, THEODORE R. SIKOLEM, MIRIAM PERRYMAN, ANTHONY ANDRIADRAMANAN, NARAYANAND KARA, LAVENDER LAW (2015) Plastic waste originates from land into the ocean. SCIENCE, Vol. 347, Issue 6231, pp. 768-771

© 2020 Kada Tomogashima Institute for Environmental Strategies (KATIES)

プラスチックは一体どこから出ているのでしょうか？そして、その背景には何があるのでしょうか。

プラスチック問題を考えることは、グローバル経済を考えることでもあります。



プラスチック問題は、どこか遠い国の話ではなく、私たちに最も身近な海にも存在しています。ここは、大阪湾に位置する、ある無人島。私はここを拠点に、大阪湾の海洋ごみ問題に取り組んでいます。



島で回収したごみを、細かく分類していき、個数や重量、容積を測ります。どのようなごみが見つかるのでしょうか？



調査には、小中学生の子供たち、流域の企業の方々、行政の方々など、色々な方にご参加いただいています。一時的な清掃（クリーンアップ）を超えて、皆さんに「市民科学者」となってもらい、データを集めています。

海でごみと出会い直すことで、自分自身の生活やビジネスを見つめ直す機会にもなっているようです。プラごみの「蛇口を閉める」ために、これからも調査と活動を続けていきます。

以上は講義の一部抜粋です。

多様な主体による参加型調査
 これまでの調査に、行政、大阪湾流域圏の企業、小中学生、大学生、地域住民など延べ500人以上が参加。異なる立場の人々が共に海洋プラ問題を学び、考える場として機能

© 2020 Kada Tomogashima Institute for Environmental Strategies (KATIES)